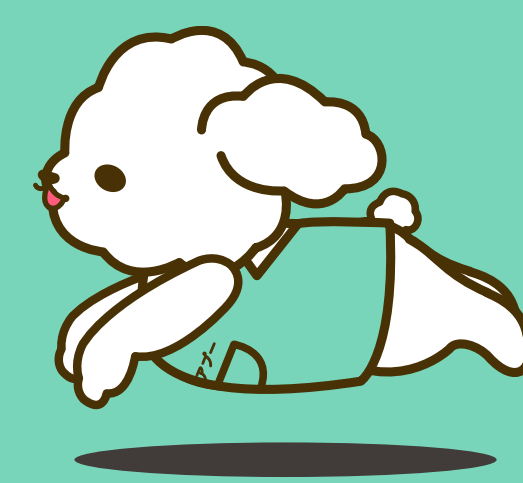


**ケアプランデータ連携システム  
活用促進事業**

# **好事例集**

**2026年2月  
富山県射水市**



はじめに ..... P 2

## 1 事業の概要

事業概要 ..... P 5

事業の目的 ..... P 5

事業の詳細 ..... P 6

事業の成果 ..... P 6

課題と今後の展望・まとめ ..... P 7

## 2 調査結果の概要

調査結果 ..... P 9

## 3 活用ポイント

居宅介護支援事業所の場合 ..... P11

サービス事業所の場合 ..... P11

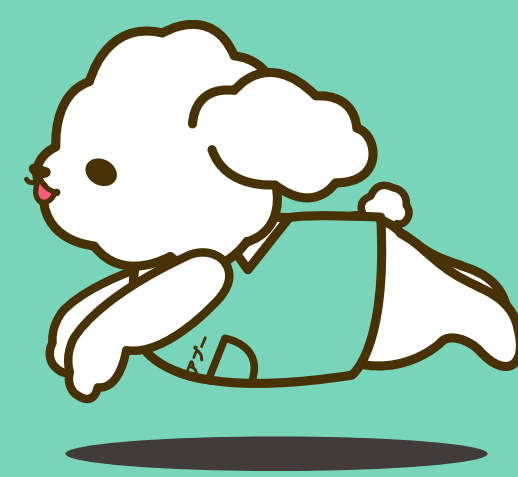
地域包括支援センターの場合 ..... P11

## 4 好事例集

ひばりケアプランセンター ..... P13

富山県看護協会訪問看護ステーションひよどり ..... P16

イヤサー新湊 ..... P18



## はじめに

急速に進む高齢化と人口減少による介護人材不足の中、介護現場では、業務の効率化とケアの質の向上という2つの課題に日々直面しています。

射水市ではこれらの課題を解決するため、ケアプランデータ連携システムの導入を地域全体で促進する「ケアプランデータ連携システム活用促進事業」に取り組み、介護現場の事務負担を軽減し、事務作業に費やしていた時間を利用者のケアに集中する時間とすることで、専門職の知識と経験を最大限に発揮し、より質の高いケアができるようになることを目指します。

本事業には多くの居宅介護支援事業所及び介護サービス事業所が参画し、伴走支援によりケアプランデータ連携システムの利用環境を整備し、操作を習得して実際の運用に結びつけることができました。本冊子は、この事業を通じて得られた成果や、ケアプランデータ連携システムを導入した事業所の声を好事例としてまとめたものです。

本事業の成果が、今回参画した事業所にとどまらず、すべての介護サービス事業所へと広がり、より多くの介護現場の生産性向上の一助となれば幸いです。

## ケアプランデータ連携システムとは？

### ケアプランデータ連携システムの現状

現在、国が推進している「ケアプランデータ連携システム」は、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所の間で毎月発生する「サービス計画書（予定・実績）」のやりとりをオンラインで完結させる仕組みです。

このシステムの導入により、印刷・通信コストや事務作業に費やす時間が削減されます。ケアマネジャーや介護現場で働く方が、利用者のケアに集中できる環境を整えるため、国は全事業所への普及を急いでいます。

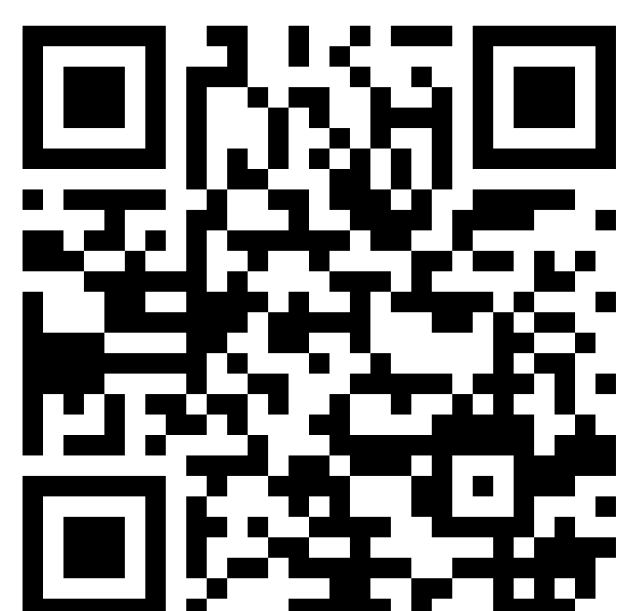
### 今後の動向：介護情報基盤の構築

介護情報基盤とは、介護保険サービスに関する情報を集約し、利用者・事業所・医療機関・市町村（保険者）等の介護保険サービスに関わる人や機関の連携を強める仕組みです。この仕組みは、これまで分散していた介護サービスに関する情報を集約し、リアルタイムで共有するものです。ケアプランデータ連携システムもこの仕組みに統合されることになっています。

これにより、以下のような変革が予測されます。

- 入退院時の連携円滑化: 病院と施設間での情報共有が瞬時に行われ、切れ目のないケアが実現する。
- 科学的介護の深化: 蓄積されたビッグデータを活用し、科学的根拠に基づくケア（エビデンス・ベースド・ケア）が標準化される。

今後の介護DXは、単なる「事務の効率化」から、データを活用した「ケアの質の向上」へとフェーズが大きく移行します。



<https://www.careplan-renkei-support.jp/>

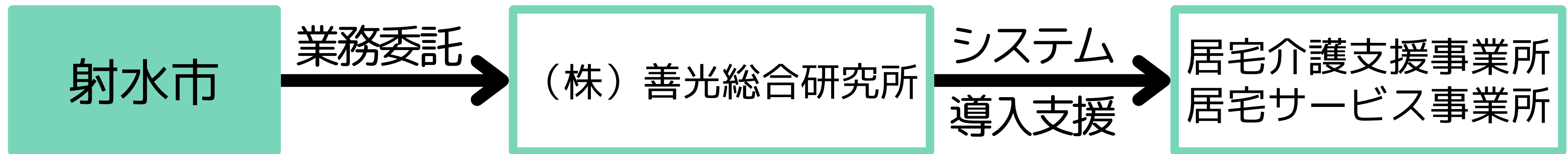


<https://www.kaigo-kiban-portal.jp/>

# 1.事業の概要

## 事業概要

本事業は、本市が株式会社善光総合研究所に委託し、介護現場の生産性向上を目的に、市内すべての介護サービス事業所及び居宅介護支援事業所等を対象に、居宅介護支援事業所等と介護サービス事業所間とのケアプラン等のやりとりをオンラインで行う、ケアプランデータ連携システム（以下「システム」といいます。）の導入から活用までの支援を一体的に実施するものです。



## 事業の目的

現在、居宅介護支援事業所等と介護サービス事業所の間では、毎月膨大な量の「サービス計画書（予定・実績）」のやりとりが行われています。

そのやりとりは、サービス計画書（予定・実績）を紙に印刷し、それをファックス、郵送又は持参等の方法により行われています。また、受け取った紙を見ながら正しく入力したり、その紙を管理したりする等の事務作業も必要であり、これらの事務負担が大きくなっています。

ケアプランデータ連携システムは、サービス計画書（予定・実績）のデータをオンラインで受信し、居宅介護支援事業所等が使用している介護報酬の請求システムに取り込むことで、転記ミス等をなくし、速く正確に事務ができるようになるシステムです。

そこで、このシステムを市内の介護サービス事業所や居宅介護支援事業所等で一斉に利用することで、介護現場の事務負担を軽減し、事務作業時間を削減することで、その時間を介護職員が利用者との対話やケアの時間にすることで、介護サービスの質の向上につなげることを目的としています。

## 事業の詳細

本事業では、システムの導入促進のほか、導入に不安を感じる事業所に寄り添って支援をする伴走支援を実施しました。

具体的に実施した内容は以下のとおりです。

- (1) システム導入のメリットを伝える説明会の開催
- (2) ケアプランデータ連携システム活用促進事業の参画の呼びかけ（電話、ファックス、メールで実施）
- (3) システム導入支援（システムに精通したスタッフが介護サービス事業所等を個別に訪問し、システムの利用環境の整備及び操作方法の確認）
- (4) FAQの作成及び公開
- (5) システムに関する質問を受付するサポートデスクの設置

ケアプランデータ連携システムの利用状況

(1)導入事業所数及び導入率の上昇

事業開始前 22事業所（導入率15%）

事業完了後 97事業所（導入率65%）

市内介護サービス事業所数 150事業所

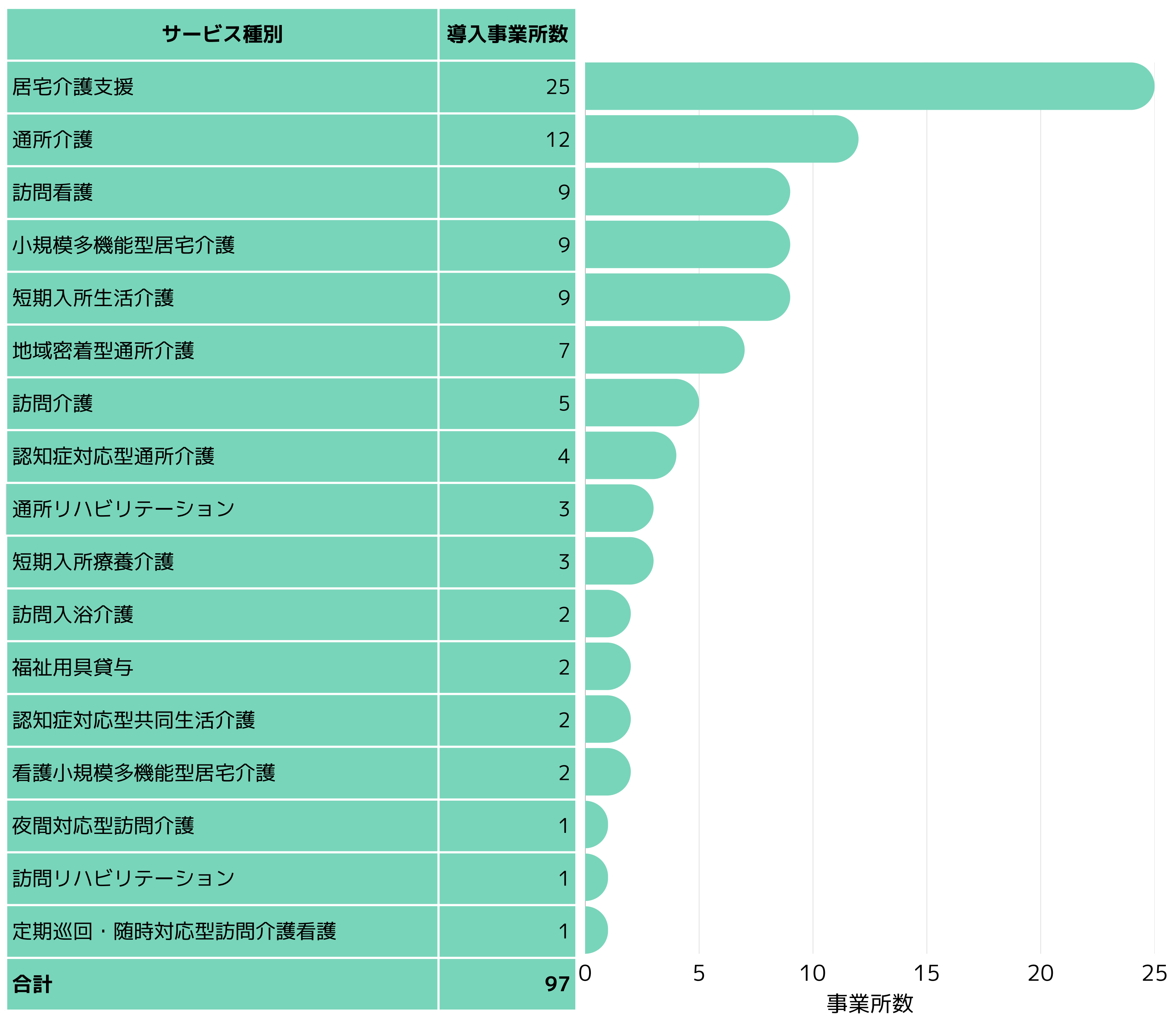
(2)システム利用者による事業の横展開

伴走支援を早期に申込し、システム導入を早期に実施した居宅介護支援事業所の「システムを実際に使ってみたら便利だった」「伴走支援が丁寧で導入できた」という声を受け、導入を検討していた居宅介護支援事業所が伴走支援の申込みを決めたケースが見られました。

この効果もあり、市内に30ある居宅介護支援事業所のうち、26の居宅介護支援事業所がシステムを導入することができました。

(3)システム導入による効果

システム導入済みの事業所に対するヒアリング調査の結果、確かな業務負担軽減の成果が確認されました。ある居宅介護支援事業所では、連携先の約4分の1とデータ連携を開始したことで、これまで提供票の印刷・封入・郵送に要していた半日（約3時間）の作業時間を約1時間削減でき、目に見えるペーパーレス化も進みました。「最初は数件からテスト的に始め、徐々に連携先を増やす」という前向きな運用ノウハウも現場から生まれています。



### 1 事業で見た課題

本事業によってシステムの導入率が大きく上昇し、市内介護事業所の64%がシステムの利用を開始しました。

一方、「周囲の事業所がまだシステムを導入していないため、現段階では導入しても連携できる事業所がないため無意味である。周囲の事業所が導入したら導入を検討する。」という理由から今回の伴走支援を見送った事業所がみられました。また、認知症対応型共同生活介護事業所では、システムの用途が分からず、導入によるメリットが感じにくいことから、導入を見送る事業所が多くみられました。

また、システムを導入済みの事業所へのヒアリング調査により、システム操作の習得がまだ完全にはできておらず、本格運用には時間がかかることや、システムを未導入の事業所と導入済みの事業所とで、事務手順が異なることによる事務負担があることがわかりました。

### 2 今後の展望

これらの課題を解決するため、「普及率のさらなる向上」と「システムの利用の定着」を目指します。

すでに64%の介護サービス事業所等でシステムの利用が開始されていますが、システムでやりとりできる事業所が増加するほど、システムの利便性は向上します。市内のすべての介護サービス事業所等でシステムを導入するよう促進していきます。

また、システムを導入した事業所が利用を継続し、地域全体でシステムの利用が当たり前になるように定着の支援を行います。

本事業の成果を足がかりに、地域全体で介護現場の生産性向上とケアの質の向上を目指していきます。

## 2. 調査結果の概要

### 調査概要

システム導入済みの事業所に対し、システム導入による効果をヒアリング調査します。

### 調査の目的

ケアプランデータ連携システムの導入により、「予定・実績管理」をはじめとする書類の印刷・封入・郵送・システムへの転記といった事務作業が、どの程度軽減されたか等を把握し、地域への普及・横展開に向けた具体的な効果と課題を検証することを目的とします。

### 調査対象

ケアプランデータ連携システムを導入済みかつ運用を開始している事業所及び運用開始の見込みがある居宅介護支援事業所及び介護サービス事業所

### 調査方法

事業所の管理者または実務担当者へのヒアリング調査

### 調査結果概要

ヒアリング調査の結果、システムをある程度活用できている事業所と、導入はしたものの活用には至っていない事業所とで、状況が大きく分かれる結果となりました。

#### 【システムを活用できているケース（前向きな変化と直面する課題）】

複数のケアマネジャーが在籍する居宅介護支援事業所では、連携先事業所の約4分の1とシステムを活用したデータ連携を開始しました。

導入前は、介護支援専門員がそれぞれ担当する数十件分の提供票を印刷し、担当者を割り当てて封入封緘し、確認し、郵送する作業に半日（約3時間程度）を要していました。印刷される紙の量は介護支援専門員1人当たり数センチの厚みに及ぶほど膨大でした。システム導入後は、一部の事業所とのやり取りがデータ化されたことで、印刷する紙の量が削減されました。また、封入・郵送にかかる手作業も省略され、これまでの作業時間を約1時間削減できました。

システムの利用を開始したばかりの頃は、システムの利用に対する不安もありましたが、「最初は数件の事業所とテスト的に始め、少しずつ連携先を増やしていくことがシステムに慣れるためのコツである」といった前向きな知見も得られており、さらなる連携先の拡大による業務効率化が期待されています。

一方、「システムで送信する事業所」と「従来通り紙やFAXでやり取りする事業所」が混在しているため、作業プロセスが二重になり、かえって管理の手間を感じる場面もあるとの声も聞かれました。また、利用している介護ソフトの仕様によっては、同一利用者のデータを複数のサービス事業所に一括送信できず、事業所ごとに都度出力して送信する必要があるなど、システム運用上の新たな手間も発生しています。

地域全体でシステムの利用に取り組むことで、この課題の解決を目指します。

#### 【システム活用がこれからのケース（操作への不安と導入直後の壁）】

ある介護サービス事業所では、システムの導入は完了し、居宅介護支援事業所から送信されたデータの受信までは確認できたものの、そこから先の操作でつまづいている実態が確認されました。受信したデータの閲覧方法や介護ソフトへの取り込み方、事業所で作成した実績データの返送方法がわからず、作業がとまっていました。

システム導入直後の事業所に対しては、介護ソフトとの連携操作を含めたより具体的な操作サポートや、事業所内の業務フロー確立のための支援が継続して必要であることがわかりました。本格的な業務削減効果は、これらの課題を解決した先に見込まれます。

# 3.活用ポイント

# 活用のポイント

## 居宅介護支援事業所の場合

### 事務作業の効率化と負担軽減

ケアプランやサービス提供票などの情報を電子的に共有することで、印刷、ファックスといった手間が大幅に削減され、事務作業の効率化と負担軽減に繋がります。これにより、ケアマネジャーは本来のケアマネジメント業務に集中できる時間が増えます。例えば、手作業での書類作成や配布にかかっていた時間が大幅に削減された事例が報告されています。

### 迅速な情報連携と支援の質の向上

システム導入により、関係機関とのタイムリーな情報共有が可能となり、連携ミスや情報伝達の遅延を防ぎ、より質の高いケアプラン作成とサービス提供に繋がります。医療機関との連携が円滑になることも期待されます。また、最新の情報に基づいた適切な支援が提供できるようになります。

### 働き方の柔軟性と地域への貢献

事務作業の効率化により、ケアマネジャーの残業時間削減や柔軟な働き方が実現する可能性があります。ICT活用や事務職員の配置と組み合わせることで、生産性向上と業務効率化が期待できます。

## サービス事業所の場合

### 書類管理の効率化とコスト削減

ケアプランやサービス提供票の電子データでの受け渡しにより、印刷、ファックスなどの手間やコストが削減されます。紙資料の保管場所も不要になるため、事業所の運営効率化に貢献します。特に書類の量が多い事業所ほど、効果が高く現れます。

### 迅速な情報共有と円滑なサービス提供

最新のケアプランや指示書が迅速にデータで共有されるため、サービス提供者はスムーズに業務を開始でき、利用者への適切な支援に繋がります。情報の確認漏れや伝達ミスも防ぎ、より安全で質の高いサービス提供が可能になります。

### 多職種連携の促進と質の高いケア

システムを通じて、ケアマネジャーや他のサービス事業者との情報共有が容易になり、連携がスムーズに進みます。会議資料や報告書などもデータで共有できるため、多職種連携による包括的な支援体制の構築に役立ちます。

## 地域包括支援センターの場合

### 地域連携の強化と情報共有の促進

ケアプランデータ連携システムは、地域内の居宅介護支援事業所や介護サービス事業所との情報共有を促進し、地域全体の連携を強化する基盤となります。地域内の情報が共有されることで、より包括的で質の高い支援体制の構築に貢献します。

### 地域包括ケアシステムの推進と質の向上

地域内の様々な事業所との連携が強化されることで、地域包括ケアシステムの構築と推進に貢献します。地域のニーズに合わせた効果的な支援体制を構築し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように支援することができます。

### 業務効率化による相談支援体制の強化

紙ベースでの情報管理や連携業務から解放されることで、地域包括支援センターの職員は、相談支援、介護予防、地域ケア会議といった本来の業務に注力できるようになります。事務作業時間の削減により、地域住民への支援活動をより充実させることが可能になります。

# 4. 好事例集

# 1 ひばりケアプランセンター | 居宅介護支援事業所



## 事業所・団体・法人概要

- サービス種別：居宅介護支援事業所
- 所在地：富山県射水市
- 職員体制：1名（管理者・主任介護支援専門員）
- 利用者の状況：56名
- 取材協力者：管理者・主任介護支援専門員  
高桑様

## インタビュー

### 導入の背景と 定着までの道のり

**畑野：**ケアプランデータ連携システムを導入された時期と、初期の状況を教えてください。

**高桑様：**導入したのは2026年の1月、年明け早々でした。最初はやはり連携できる事業所が少なかったため、同時期に加入したケアマネ仲間とお試してやり取りを始めました。まずは「PDFのメール送信がうまくいくか」といった基礎的な確認からスモールステップで進めていった形ですね。

**畑野：**現在の活用状況はいかがでしょう？

**高桑様：**正直なところ、まだ全体の割合としてはこれからという段階です。今月は加入している事業所さんに「今月送ってみるから、取り込んでみて実績を返してほしい」と、お互いに操作を確認し合いながら一事業所ずつ丁寧に進めているところです。ただ、近隣のケアマネさんたちから

も「積極的に使っていくよ」という声が聞こえ始めているので、来月からは一気に増える手応えを感じています。

**畑野：**導入にあたって、心理的なハードルはありましたか？

**高桑様：**もともとデジタル化には前向きでしたが、やはり相手があることなので、最初は「できない」と言われなにか不安もありました。でも、まずは身近なところから始めて、少しずつ「これならいける」という確信を深めていきました。

### 具体的な導入効果

**畑野：**従来のFAXによるやり取りと比較して、操作性や事務負担はどう変わりましたか？

**高桑様：**圧倒的にデータ連携システムの方が送りやすいですね。私の場合はパソコン上でPDF化してFAXを送っていましたが、宛先の設定など意外と手間がかかります。データ連携なら、

ダウンロードしたCSVファイルを貼り付けるだけで、事業所番号から自動的に相手先が判別されるので、入力の手間がほとんどありません。



### INTERVIEW

ひばりケアプランセンター  
センター長／生活支援コーディネーター

高桑様

インタビュアー  
NPO法人タダカヨ 畑野充則

## 1 ひばりケアプランセンター | 居宅介護支援事業所

畑野：システム上での「事業所番号」の入力が負担だという声もありますが、実際はいかがですか？

高桑様：ファイルをダウンロードすれば自動で相手先が出てくるので、自分で入力する手間は全く感じていません。確かにPDFでやり取りする場合は入力が必要になる場面もあるかもしれませんが、CSVファイル（データ）でやり取りする分には、懸念されているような負担はないというのが実感です。



畑野：特に「ここが楽になった」と感じるポイントはどこですか？

高桑様：何とんでも「実績入力」です。FAXで届いた紙を見ながら、一つひとつ画面に打ち込む作業は本当に時間がかかります。これがデータ連携になれば、一発で取り込める。実際に活用している仲間からも「びっくりするほど楽だよ！」という声が出ていますし、ケアマネにとって一番の負担が解消されるメリットは大きいと思います。



### ペーパーレス化とクラウド活用

畑野：データ連携以外の部分でも、かなりペーパーレス化を進められていると伺いました。

高桑様：はい、当事業所はもともと紙をほぼ使わない「完全ペーパーレス」の運用をしています。書類はすべてOneDriveなどのクラウド上で管理しており、パソコンやモバイル端末からいつでも確認できるようにしています。今回のデータ連携導入も、その一環としてスムーズに受け入れることができました。

畑野：訪問先での記録や署名などはどのように対応されていますか？

高桑様：訪問時にはiPadを持参しています。ケアプランへの署名も、iPad上のPDFファイルに直接署名ツールで書いていただいています。それをそのままクラウドに保存するので、紙を持ち歩く必要も、後でスキャンする手間もありません。

畑野：記録作成についても効率化の工夫をされているそうですね。



高桑様：ボイスレコーダーを活用した音声入力を行っています。録音した内容を文字起こしして、支援経過などに貼り付ける形です。手書きやキーボード入力よりも格段に速いですし、事務作業の心理的なハードルがぐっと下がりましたね。こうしたツールを組み合わせることで、一人でも余裕を持って業務に当たることができています。

# 1 ひばりケアプランセンター | 居宅介護支援事業所

## 今後の展望

今後はさらに連携先を増やし、地域全体でデータ連携が当たり前になる空気を作っていきたいです。手段が一つ増えるだけではもったいないので、「データ連携を使うことで実績入力が自動化され、お互いの時間が生まれる」という成功体験を共有していきたいですね。

## 他事業所へのメッセージ

「実績入力が劇的に楽になります」と伝えたいです。新しいシステムへの抵抗感があるかもしれませんが、実際に使ってみれば、これまで紙を見ながら手入力していた時間がどれほどもったいなかったか気づくはずですよ。まずは身近な事業所同士で、一歩踏み出してみませんか？

## インタビューから見えたポイント！

### 居宅主導の普及

居宅側が積極的に活用を促すことで、地域全体の効率化を牽引している。

### 徹底したデジタル

音声入力やiPad署名を活用し、事務作業の心理的・時間的ハードルを下げている。

### 心理的負担の軽減

複雑なFAX送信設定より簡単なデータ連携を選び、業務の質を向上させている。

## 2 富山県看護協会訪問看護ステーションひよどり | 訪問看護



### 事業所・団体・法人概要

- サービス種別：訪問看護ステーション
- 所在地：富山県射水市
- 職員体制：看護師5名
- 利用者の状況：20名
- 取材協力者：訪問看護ステーション 担当者 森様

## インタビュー

### 導入の背景と 定着までの道のり

**畑野：**ケアプランデータ連携システムを導入された時期と、初期の状況について教えてください。

**森様：**システム自体は1月30日に入れまして、実際の運用は2月12日頃からスタートしました。まだ始めて間もない状況ですが、すでに4箇所の事業所とデータ連携を行っています。以前に比べれば、順調に数が増えてきているなと感じています。

**畑野：**連携先を増やす際、どのように進められたのでしょうか？

**森様：**サイト上の「ワムネット」などで公開されている情報だけでなく、こちらから直接、システムの機能を使って居宅介護支援事業所へ呼びかけを行っています。直接メッセージを送って返信をいただくという形で、地道に連携先を広げています。

最初は相手が見つかるか不安もありましたが、週を追うごとに連携できる事業所が増えていく手応えがありますね。



**畑野：**導入当初、操作などに戸惑いはありませんでしたか？

**森様：**実を言うと、訪問看護ソフト自体の操作に慣れるのにも苦労していたのですが、この連携システムについては「メッセージ機能」が非常に分かりやすく、助かっています。相手の事業所番号を調べる手間は最初だけありますが、一度やり取りすれば履歴に残るので、コピー＆ペーストで対応すれば大きな負担には感じません。

### 具体的な導入効果

**畑野：**従来のFAXによるやり取りと比較して、事務負担に変化はありましたか？

**森様：**今までは翌月の提供票などもすべてFAXで送ってもらっていました。データ連携に切り替え



### INTERVIEW

富山県看護協会訪問看護ステーションひよどり  
訪問看護ステーション 担当者

**森様**

インタビュアー  
NPO法人タダカヨ 畑野充則

## 2 富山県看護協会訪問看護ステーションひよどり | 訪問看護

てからは、まだ「使いこなしている」と言い切れる段階ではありませんが、**事務作業は確実に楽になる**という確信を持っています。特に、提供票をデータで取り込めるメリットは大きいですね。

畑野：実績データの送信以外に活用している機能はありますか？

森様：はい、CSVファイルだけでなく**PDFファイルのやり取り**にも活用しています。訪問看護の現場では図や表を含んだ資料を共有することもあります。このシステム上でメッセージと共にPDFをサッと送れるのは、従来のFAXよりも利便性が高いと感じています。



畑野：相手側の事業所から、データ連携への切り替えを断られることはなかったのでしょうか？

森様：今のところ、「やりません」と断られたことは一度もありません。「練習中ですので」と

一緒に取り組んでくださる事業所さんが多く、地域全体でデジタル化へ向かおうとする前向きな雰囲気を感じています。

### ペーパーレス化とクラウド活用

畑野：データ連携で受け取った情報は、どのように管理されていますか？

森様：受け取ったデータは介護ソフトにダウンロードし、実績を入力して翌月に送り返すというフローを組んでいます。**あえて紙に印刷して保管することはしていません。**データのまま管理することで、保管スペースの削減にもつながっています。ただ、スタッフ全員で内容を確認する際などは、まだ画面上での共有に慣れていない部分もあるため、今後もっと活用方法を工夫していきたいですね。

畑野：データ連携以外で、クラウドツールなどの活用状況はいかがでしょう？

森様：組織的なセキュリティの問題もあり、Google Workspaceなどの新しいツールを全面的に導入するにはまだハードルが高

いのが現状です。ですが、現場ではiPadを導入しており、訪問先での記録入力にはしっかり活用しています。できるところから少しずつ、デジタル化を進めている段階です。

### 今後の展望

現在は連携先が約半数ですが、これをさらに増やしていくことが目標です。また、今はデータの「受け渡し」がメインですが、将来的には完全にペーパーレスで業務が完結する状態を目指したいですね。自治体側の確認なども含めて、データ管理が標準的になれば、より使い勝手も向上するのではないかと期待しています。

### 他事業所へのメッセージ

いきなりすべてを完璧にこなそうとすると大変ですが、このシステムにはPDFを送るなどの便利なメッセージ機能があります。「まずはメール感覚でPDFを送ることから始めてみる」のが、良い練習になると思います。紙代やFAX代などの経費削減にも直結しますし、長い目で見れば絶対に効率的ですので、まずは一歩踏み出してみることをお勧めします。

## インタビューから見えたポイント！

### スモールスタート

PDF送信機能を「練習」として活用し、無理なく定着させる視点が秀逸。

### コピペで時短

事業所番号の入力を履歴からのコピペで対応し、運用負担を最小化している。

### コスト意識の高さ

紙代・FAX代の削減を明確なメリットとして捉え、経営の効率化に繋げている。

## 3 イヤサー新湊 | 富山型デイサービス（地域密着型通所介護等）



### 事業所・団体・法人概要

- サービス種別：富山型デイサービス（地域密着型通所介護等）
- 所在地：富山県射水市
- 利用者の状況：18名
- 取材協力者：管理者 中田様、荒谷様

## インタビュー

### 導入の背景と 定着までの道のり

畑野：システムの導入時期と、利用を開始した経緯を教えてください。

中田様・荒谷様：2026年の1月に導入支援をいただき、実際に使い始めたのは2月からです。当初は連携相手が少なかったのですが、3月に入ってからは受け入れ可能なことを周知し、少しずつ連携先が増えてきている状況です。

畑野：導入当初、操作面などで苦労された点はありましたか？

中田様・荒谷様：正直に申し上げまして、最初は右も左もわからない状態でした（笑）。ただ、介護ソフト（ほのぼの）のメーカーさんにリモートで丁寧にお手伝いいただき、なんとかデータの取り込みができるようになりました。実績を返信する方法も、2時間ほどかけて一つひとつ手順を理解しながら勉強し、ようやく習得できたところです。

### 具体的な導入効果

畑野：従来のFAXでのやり取りと比較して、どのような変化を感じていますか？

中田様・荒谷様：これまでは全ての提供票をFAXで送受信していましたが、データ連携なら「一括で取り込める」のが大きな魅力ですね。今はまだ慣れるために必死な面もありますが、操作を完全にマスターすれば、間違いなくFAXよりも簡単で効率的になると確信しています。



畑野：操作のステップで、特に便利だと感じたポイントはありますか？

中田様・荒谷様：デスクトップ上に必要なファイルのコピーを

置いて作業する方法などを教わり、非常に参考になりました。「一気に送れる、一気に取り込める」というメリットは、事業所番号の入力などの手間を差し引いても、事務負担の軽減に大きく寄与していると感じます。



### INTERVIEW

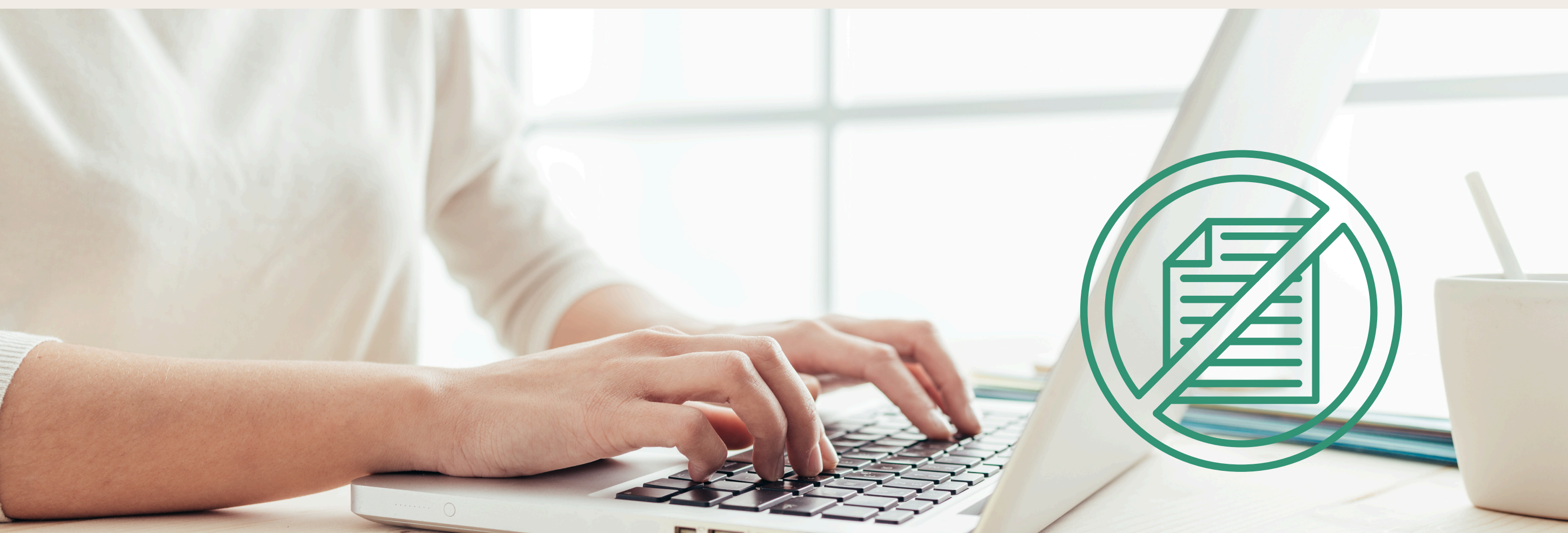
イヤサー新湊  
管理者

中田様

イヤサー新湊  
荒谷様

インタビュアー  
NPO法人タダカヨ 畑野充則

## 3 イヤサー新湊 | 富山型デイサービス（地域密着型通所介護等）



### 今後の展望

まずは現在の連携先をさらに増やし、提供票のやり取りを完全にデジタルへ移行させたいです。操作に慣れることで生まれた時間を、利用者様と向き合う本来の業務や、さらなるケアの質向上に充てていきたいと考えています。

### 他事業所へのメッセージ

最初はログインや操作に戸惑うこともあるかもしれませんが、しかし、「一度に全員分を取り込める」という利便性は、これまでの手入力やFAX管理には戻れないほどの価値があります。迷っているなら、まずは一步踏み出してみることをお勧めします。



### ペーパーレス化とクラウド活用

畑野：データ連携以外での、デジタル化の取り組みについてはいかがでしょう。

中田様・荒谷様：現在、介護ソフト自体はクラウド版を使用しており、場所を問わず仕事ができる環境は整いつつあります。紙の書類をスキャンしてPDF化するような完全なペーパーレス化はこれからですが、今回のシステム導入を機に、「中途半端な状態を脱して、紙をなくす方向へ進みたい」という意欲が高まりました。

畑野：今後のデータの管理方法についてはどうお考えですか？



中田様・荒谷様：スマホやパソコンからいつでもログインして確認できるクラウドツール（Googleドライブ等）の活用にも興味があります。データ連携システムで受け取った情報を、そのままデジタルで管理する流れを作っていければ、より現場の動きがスムーズになると考えています。

## インタビューから見えたポイント！

### 一括処理の壁を突破

手入力の手間を「一括取り込み」で解決した、DXの好事例。

### 伴走支援の重要性

ソフトメーカーのサポートを受け、管理者が自ら習得した点が鍵。

### 意識変革の契機

データ連携を機に、クラウド活用への関心が高まった好循環が見える。

介護をつなぐ。心がつながる。



2026（令和8）年2月発行

**富山県射水市**